

晴天下で楽しく戦争と平和を考えた1日でした

第14回平和リレー講座の報告

今年で14回目、猿投地区の戦争遺跡と証言者を訪ねました。

今年の中日新聞などでの紹介で注目され、電話での申し込みがあいつぎました。やむなくお断わりした方もありました。参加者は、90歳近い方から小学生まで80数人でした。素晴らしい晴天にもめぐまれました。

(①炊事場となった如意寺太鼓楼)



まず石野地域の①如意寺で檀家総代の沢田さんから学童疎開児童の生活が語られました。次に廃止された②名鉄西中金駅に着いて安藤勇元郷土資料館館長の説明を聞きました。そのあと、戦争のためまぼろしとなった③足助・香嵐溪線中止路線跡と野口雨情碑を訪ねました。さらに④連合軍捕虜を収容していた広済寺へ行き捕虜と家族の生活、交流などを聞きました。



そして猿投地域へ。車中より1000名もいたと言われる⑤鉾山跡(③まぼろしの足助線脇、野口雨情歌碑)朝鮮部落などを見学して⑥御船区民会館にて昼食、証言交流会へと進みました。

特攻隊を含む軍隊体験、朝鮮農耕隊をこの目で見た話や自分自身の体験などを4人の方が語られました。御船の⑦浄厳寺では住職さんより、14,5歳の朝鮮農耕



隊が50人ほど宿泊していた生活、作業などが説明され松の木に縛られて虐待を受けていた話などがありました。住職は「戦争はいかん、どの国とも、(④広済寺本堂にて スケッチ・紐展示) どの人種でも仲良くしなければ」と強く話されました。



次に保見地域へ移動。国家総動員法の施行により全てのお寺の梵鐘を供出しま

(⑦浄厳寺にて 住職のお話)

したが、⑧永澤寺では、供出した梵鐘は帰ってこずの話の聞きしました。またこの地域に松平へ撃墜されたB29に体当たりした⑨日本兵の墜落地について証言者から地図を示して説明がありました。



(⑨供出される梵鐘

んでいた方の証言では「遺跡」となるものが次々に崩れ去っています。そして

中央が永澤寺の梵鐘) 隣には小学校が新設されました。33歳の青年は「過去にも目を向けて、二度と

戦争を繰り返さないよう悲劇のあとをしっかりと保存、管理し、次世代に伝えていくということも、また、未を担う子どもたちのために、今できることなのではないだろうか」と感想を述べています。

小学校教師からは「歴史学習において体験談、史跡か(⑨墜落地の説明)ら学ぶということの重要性を改めて感じた」と感想が寄せられ、また、「朝鮮から若い兵士を連れてきて強制労働、その事実を全く知らなかった」「再び戦争をする国にならないようになどの多数感想が寄せられました。



(⑩名古屋海軍航空隊通信壕跡の入口)